

(別記第2号様式)

令和4年度 協議会評価調書(案)

【協議会評価】

協議 会 評 価	総合評価
	A B C

【協議会評価意見】

全体を通して、博物館が様々な事業に取り組み成果を挙げていることは資料からうかがえるが、地域住民との継続的な関係の強化や、道内地域との連携の強化、事業の企画立案にあたっては外部からの意見を取り入れることなど、北海道の中核的博物館として、また、道民参加型の博物館としての取組に一層努めることを期待する。

博物館の事業成果、特にアイヌ民族文化研究センター所管である、アイヌ民族が語ったり製作したりした無形・有形の資料・文化財や、その調査研究の成果については、館内や研究者だけがアクセスできるのではなく、アイヌの側に、特にこれからの担い手となる世代などに届けることや、所蔵しているアイヌの歴史・文化についての資料をアイヌの側が利用しやすい取組(収蔵庫内資料の熟覧など)に一層努めることを期待する。

総合的には、博物館が様々な事業に取り組んでいることはうかがえるが、年度計画に対して突出した成果をあげているという意見は見られないことから、総体的には「概ね計画どおり達成」していると見なし、総合評価はBとした。

【評点】 A=計画どおり又は計画以上に達成、B=概ね計画どおり達成、C=計画どおり達成されていない

令和4年度博物館総合評価 博物館評価 事後評価結果（概要）

番号	項目名	主な事業	一次評価	二次評価
1	資料の収集・保存	資料の収集 収集した資料の保存 収集資料の利用（資料の熟覧、出版物等への掲載、貸借）への対応	A	A
2	展示	総合展示室の運営 企画展示の開催（企画テーマ展、特別展等）	A	A
3	調査研究	研究プロジェクトの企画・推進（道費による研究課題のほか随時外部資金による研究課題に取り組む）	B	B
4	北海道開拓の村の整備	北海道開拓の村の歴史的建造物の補修工事計画・メンテナンス実施 北海道開拓の村の歴史的建造物の内部展示及び展示資料の管理・充実	B	B
5	教育普及事業	教育普及行事（イベント）の実施 学校等の団体受入、展示解説の充実 はっけん広場（体験学習室）の運営	A	A
6	ミュージアムエデュケーター機能の強化	学校等との連携の連携・利用促進の強化（学校等との連携を担う人材育成：関連する内容の研修会への職員派遣等）	A	A
7	施設及び周辺環境の整備	館内施設の整備、館内施設の活用（屋上スカイビュー特別開放 等） 周辺環境の整備 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進	A	A
8	広報	誘客促進、理解促進に向けた情報発信、取材対応、講師等派遣（他機関との連携、海外向け情報発信、修学旅行誘致等を含む） 広報誌・行事案内、展示会のポスター、チラシ等の発行と配布	A	A
9	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	博物館事業に対する評価の実施 北海道立総合博物館協議会の開催 利用者満足度等の各種調査	A	A
10	道民参加の推進	「道民のための博物館」を目指した道民参加型活動の企画・推進	B	B
11	博物館ネットワーク	北海道の中核的博物館としての事業（北海道博物館協会事務局、日本博物館協会支部長館等） 各種博物館団体との連携、博物館交流の促進（周辺施設とのネットワーク事業）	A	A
12	情報発信	収集資料情報システム（収集資料データベース）の管理・活用 図書室の運営 レファレンス（利用相談、各種問い合わせ）対応	A	A
13	人材育成機能の強化と社会貢献	当館職員の各種研修派遣、館内研修等の実施 博物館実習の実施、インターンシップ等の受入れ 職員の対外貢献（依頼講演、地域支援、他機関の委員就任、執筆依頼等）	B	B
14	研究成果の発信	研究成果をまとめた学術刊行物（研究紀要等）等の刊行 学会への発信（学会発表、学会誌投稿）	A	A
15	アイヌ民族文化研究センターの事業	アイヌ文化に関わる理解促進、文化振興等のための調査研究とその成果の普及 アイヌ文化に関わる学術情報の集約と発信・研究支援	A	A
16	4つのビジョン（重点目標）	北海道博物館の「4つの使命」「基本的運営方針」に基づく、博物館全体として取り組む事業 ・「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた、文化観光拠点計画の策定・認定申請 ・ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携 ・樺太連盟からの資料移譲等にもとづく樺太記憶継承事業の実施	A	A

【評点】 A＝計画どおり又は計画以上に達成、B＝概ね計画どおり達成、C＝計画どおり達成されていない